

ごしきちょうあいはらかやのちくはしらまつさいとう
五色町鮎原栢野地区の柱松(柴燈)



所在地：洲本市 五色町鮎原栢野



「栢野の柱炬火」洲本市 山本雅宣氏撮影 (第2回淡路島景観フォトコンテスト 応募作品)

五色町鮎原栢野地区で400年余り前から続いていると伝えられる「柱松の柴燈」は、日本に三カ所しか行われていないと言われる奇祭です。送り盆の行事として毎年8月16日の夜に行われます。

8月1日に出役の柴切り役数名が適当な大きさの木柴を切り、薬師堂の庭に運んで半月間乾かします。柴燈は1年間近くの池に浸しておいた丸木柱を芯に、柴とわらを巻きつけ、直径約2m、高さ約10m余りの柴燈を作り上げます。

これを梯子とつかい棒を使い立て、昼間にレンズを使い採火しておいた種火を、地蔵寺の僧侶が読経のあと、火付竿を使って柴燈の頂上に点火し、赤々と燃える炎と共に先祖の霊に祈りを捧げます。

- 【景観の特徴】
- 自然が作りだす景観
 - 歴史が作りだす景観
 - ✓ 生活・文化が作りだす景観
 - 新しく作りだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道津名一宮ICから県道66号線を南下。車で約40分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図